

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

白岳中学校区 校番 3 学校名 呉市立白岳中学校

| 重点  | d 中期(3年間) 経営目標   | e 短期(1年間) 経営目標  | l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)  | m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))   |
|-----|--|---|---|--|
| *** | <p>基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p>                | <p>① 生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。</p> <p>学習観をレベルアップさせ、自律した学習者を育てる。</p>                | <p>分からないことを分かってもらう生徒の割合が90%を超えており、ほぼ全員の生徒が主体的に学ぶ姿勢が見られる。また、この数値は前年度より2%増加している。一方で、どの学年も1割の生徒は学習に対して前向きな姿勢が持ちにくい状況にある。</p> <p>学校推薦図書を1ヶ月に1冊以上読む割合は、1学年の平均73%、2学年の平均87%、3学年の平均72%で、学校全体の平均は79%と、目標値に達しているのは2学年だけである。意識付けの不足を感じる。JCノートの提出率は95%と高かった。100%をめざして頑張りたい。『学び方5』を意識してノートをとる生徒の割合は68%で、昨年度より5ポイント増加している。</p>   | <p>主体的な態度を育むために、定期試験前に学力補充教室を行い、定期試験での点数向上を図る。また、結果だけではなく、やろうとする姿に対しても目を向け、適宜声かけを行っていく。</p> <p>保護者アンケートによると、「家庭で我が子に読書をしっかりとるように言う」家庭の割合は67%であり、この数値は高いとはいえない。校内で委員会を通して声かけを継続するが、家庭への呼びかけも必要と思われる。読書量や読書の質が、学力へ反映する可能性は高く、決して読書をおろそかにしてはいけない雰囲気作りは重要である。学級で100%をめざし生徒間で声かけができることを目指したい。学習観レベルアップ講座を実施できたことが肯定的評価の増加につながっていると考えられる。2学期も実施していきたい。</p> |
| **  | <p>話し合い活動の中で自己決定能力を高め、規範意識を身につけ、認める・ほめる指導により、自尊感情を高める。</p> | <p>① ルールやマナーなど規範意識を身につける指導の徹底を図る。</p> <p>キャリア教育を充実させ、明確な夢や目標を持つ生徒を育成する。</p> | <p>ルールやマナーを守って生活している生徒の割合は、99%となり、目標値を達成することができた。ノーチャイム運動や無言清掃チェックの実施などにより、生徒の意識を高めることができたと考えられる。生徒会執行部や学級の委員会の人が主体となり、前向きに取り組むを進めることができた。</p> <p>将来の夢や目標に向かって頑張っている生徒の割合は、全体で8割と目標値を達成することが出来た。ドリームマップ作成等を通して、自身の夢を改めて認識したり、それに向かってどのように何を頑張らなければいけないかを知ること、具体的な将来像を描き、前向きに取り組むことができた。体育大会に満足している生徒の割合は、91.2%となり、目標値を上回っている。昨年度は実施できなかったが、今年は例年と内容を変更してではあるが実施できたことで、生徒の意欲につながることができた。</p> | <p>ノーチャイム運動や無言清掃チェックなどの規範意識を高める運動を引き続き進めていく。また、学級だけでなく、部活動とも連携し、ルールやマナーを定着させるような取り組みを考えて行っていく。</p> <p>各教科での横断的な学習を通して、具体的な目標や将来像を明確にし、さまざまな職業について知識を深め、自身の夢や目標に向かって、自主的に学べるよう声かけを続けていく。2学期の文化活動発表会は、体育大会と同様に、生徒主体かつ安心・安全に実施できるよう、生徒会を中心に取組を進めていく。</p>  |
| *   | <p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>                           | <p>児童生徒と向き合う時間の確保</p> <p>長時間勤務の削減</p>                                       | <p>教職員アンケートの「生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」における肯定的評価は、81%であった。生徒と向き合う時間が確保できていないと感じる教職員について考察すると、校務分掌、学級、教科指導等について、業務の集中する職員に生徒と向き合う時間が確保できていない。</p> <p>4月～7月までの4ヶ月間で、26人の常勤教員の時間外勤務時間を入校退校記録を考察すると、時間外在校時間が45時間を越える教員は、延べ人数で26人いた。従って、4ヶ月トータルで45時間未満の職員は75%であった。年度始めの業務の過多と主任・主事のリーダーに、業務が集中していると考えられる。</p>   | <p>部活動休養日と定時退校日がほぼ定着している。2学期以降は、継続していくとともに、定時退校日以外にも定時退校の意識を高めていく。各分掌、各学年で業務担当を見直して、一人に多くの業務が集中しないようにするとともに分掌、学年内で協働ができるようにしていく。</p> <p>学期始めや学期末に多くの業務が集中するので、比較的業務の少なめな時期に先を見越した計画的な校務運営ができるような体制を心がけたが、学習指導要領改訂に伴い例年以上の業務量になった。また、タブレット端末を活用して、業務改善と学習指導の効率化と学力向上に努めていきたい。</p>   |